

# 令和5年度 第29回 大学院セミナー

令和5年6月26日

分野名 Area of Research (責任者名)(内線)	腫瘍・診断病理学分野 (原研病理) 責任者名(中島正洋) 内線(7105)
演題 Title	第178回 原研研究集会 脳腫瘍病理診断の最新トピックス
講師等 Presenter	東京女子医科大学 医学部 病理学講座 (人体病理学・病態神経科学分野) 准教授 増井 憲太 先生
概要 Abstract	<p>脳腫瘍の診断では、元来中枢神経に内在する起源細胞を推定し、形態の類似性に基づき分類が行われてきた。しかし、腫瘍型評価において診断者間の不一致率が大きく、また次世代シーケンサー (next-generation sequencing: NGS) の開発により脳腫瘍の遺伝学的背景が明らかとなるにつれ、形態学のみを基礎を置く腫瘍分類は限界を迎えた。結果として脳腫瘍診断は、WHO 2016 分類 (WHO 改訂第4版) で分子分類へと大きく舵を切ることになり、起源細胞に基づく腫瘍型診断を可能とする DNA メチル化アレイの出現がその流れを一層加速させた。以後、cIMPACT-NOW (the Consortium to Inform Molecular and Practical Approaches to CNS Tumor Taxonomy) の提言を経て発刊された最新の WHO 2021 分類/第5版では、多くの腫瘍型で遺伝子異常の評価なしには確定診断に至ることが困難となった。本講演では、びまん性グリオーマに着目して新 WHO 分類を概観することで、形態から分子へと移行した脳腫瘍診断の歴史的背景の理解を目指す。同時に、分子診断時代において病理医が日常臨床の現場で対応する際の指針となる、形態学を重視する古典的アプローチの重要性から、がんゲノム医療やアジア・オセアニア地区を包含する実践的脳腫瘍診断の取り組み (AOSNP-ADAPTR) まで、注目すべきトピックスについて解説する。</p>
開催日時 Date and Time	令和5年7月20日(木) 17:30~ 19:30
開催方法 Online/Face to face	対面 (良順会館 専斎ホール)
備考 Notes	原研セミナーと共同開催

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語 (Japanese)
- 対面 (Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語 (English)
- オンライン (Online)